

石巻健育会病院

症 例 概 要 患者氏名：Aさん（80代 男性 肺炎後廃用症候群）

既往症：直腸癌同時性肝転移術後（肝切除2回）、転移性肺腫瘍

入院期間：2020年2月上旬～2020年6月中旬（退院）

経過：2020年2月肺炎治療実施。肺炎は改善したが、認知機能低下あり食事摂取困難なため、高カロリー輸液実施。抗癌剤投与は適応外で中止。看取り目的で当院療養へ入院となった。入院時から覚醒不良は続いた。そこで、覚醒状態を改善するため、医師、看護師、リハビリスタッフとで、早期離床を図り、リハビリやレクリエーション参加を実施。食事摂取については、ST、看護師（KOMIシステム活用）、認知症ケアチーム、口腔ケアチームが介入し、口腔内環境の改善と、食事の認識を高めるため、認識面に働きかけた食事摂取方法を統一した。栄養士は細やかに食事形態の変更に対応し、4月には高カロリー輸液から経口摂取へ移行し自力で摂取することができた。リハビリも進み、日常生活自立度C2から歩行可能となり、本人の望む自宅へ退院した症例。

内 容

前医では、覚醒状態と認知機能低下で食事摂取困難と判断され、CVポートより高カロリー輸液を実施していた。長期間の抑制対応で廃用は進んでいたとご家族より情報あり。ご家族は「看取りの覚悟はできているが、一縷の望みで何か食べることができたなら」と経口摂取を希望していた。入院後は早期にリハビリや離床を開始し覚醒状態の改善に努め、口腔内環境を整え、経口摂取に向けて多職種一丸となり介入した。

看護師はKOMIシステムを活用し、持てる力に働きかけ、経口摂取の確立にSTと協働し取り組んだ。リハビリは、患者さんやご家族から興味関心のあるものを聴取し、患者さんができるリハビリ内容を行った。患者さんらしい生活ができるように、快刺激を利用してリハビリに対しての意欲を高めたり、動作の効率・再現性を高められるように介入した。結果、食事自力摂取可能まで回復し、高カロリー輸液から3食経口摂取となった。リハビリでは好きなスポーツを取り入れADLの拡大を図っていた。血痰等の症状はあるが、残された時間を自宅で過ごさせてあげたいとご家族の希望を叶えるため、在宅退院を目指し調整。MSWは在宅支援を整え、6月中旬にご自宅への退院を実現した。看護師は在宅生活の不安軽減を図るために、退院訪問指導を計3回実施し、認知症ケアや生活動作に合わせた排泄ケアの指導を行い、訪問看護（ひまわり）へ繋いだ。日中のみだが、トイレでの排泄も可能となり、安定した在宅生活を過ごされている。

姉は、「看取るために入院した病院で、ここまで回復し自宅にまで帰えることができました。また、人らしさを取り戻すことができたことに感謝しています。」と感謝の言葉をいただいた。医師を中心に、多職種の関わり、専門チームの質の高いケアが患者さんの持てる力を高め、その人らしさを取り戻しご自宅への退院支援が出来た症例であった。

FIM	入院時	運動	13/91	認知	8/35	計	21 /126
	退院時	運動	32/91	認知	16/35	計	48/126